

ワークシート 1

※赤字は解答例や生徒の実際の記入例

今回の単元のキーワード 「 **民族自決** 」

民族自決とは **各民族が自らの意志でその帰属や政治組織を決定すべきことを主張**

Question 1 第一次世界大戦前は**民族自決**の状況ではなかった。なぜだろう？

- ・列強が植民地を獲得するために動いていたから
- ・帝国主義の時代の中でアジア、アフリカをはじめ多くの地域が植民地化されていたから

→ 民族自決は**世界から植民地をなくそう**という目標！

Question2 教科書の資料や記述を参考に民族自決の理念により独立した国をあげてみよう

ポーランド、フィンランド、エストニア、ラトヴィア、リトアニア、チェコスロヴァキアなど

Question 3 史料の【1】と【2】を読んで、民族自決の理念と矛盾する内容を探してみよう

【2】ヴェルサイユ条約の119より、ドイツの海外領土が主要な連合国と協調国に与えられるのは、民族自決にならないのではないか

【2】ヴェルサイユ条約の156より、中国の山東省を日本のために放棄するのも民族自決に反するのでは

Question 4 史料【3】はヴェルサイユ条約に反発した北京の学生界の宣言である。反発した理由や、史料の中の“朝鮮は独立をはかって”の具体的な内容を考えてみよう

パリ講和会議において、期待していた青島の返還や中国に関する不平等条約が撤廃されなかったから。朝鮮は当時、日本に併合されており、独立を求めて三・一独立運動を起こした。

●民族自決の理念の問題点は？

民族自決の理念はポーランド、フィンランドなどヨーロッパにおいては実現されていた。しかし、アジア・アフリカには適用されなかったことが問題点であった。その結果、朝鮮では三・一独立運動、中国では五・四運動が起こった。

資料 資料の原文は斜体

【1】「十四か条の平和原則」（西崎文子訳『世界史史料 10』、中屋健弑訳『原典アメリカ史 5』岩波書店）

5 ……対象となる（植民地の）人民の利害が、主権の決定を受けることになる（支配国の）政府の公正な要求と平等の重みをもつという原則を厳格に守らねばならない。

【2】ヴェルサイユ条約

87 ドイツ国は……ポーランド国の完全な独立を承認し……以上の地域に対する一切の権利と要求を放棄する。

119 ドイツは海外領土にかかわるすべての権益、権利を放棄し、これらは主要連合国と協調国に与えられる。

156 ドイツは……山東省にかかわるすべての権益……について、日本のために放棄する。

【3】「北京学生界宣言」（高田幸男訳『世界史史料 10』岩波書店）

そもそも講和会議が開幕したとき、われらが願い、慶祝したのは、世界に正義・人道・公理があるということだったからではなかったか。青島を返還し、中日の密約や軍事協定およびその他の不平等条約を廃棄することは公理であり、すなわち正義である。……フランスはアルザス・ロレーヌ両州に対して「得られなければ、むしろ死んだほうがよい」と言った。……朝鮮は独立をはかって「独立できなければ、むしろ死んだほうがよい」と言った。

メモ

1919 パリ講和会議

アメリカ大統領〔 **ウィルソン** 〕の**十四か条**が会議の内容の中心に

- (1) 秘密外交の廃止
- (2) 軍備の縮小
- (3) 国際平和機構の成立

→**ヴェルサイユ条約** 対ドイツ

- (1) フランスに〔 **アルザス・ロレーヌ** 〕を割譲
- (2) 巨額の賠償金の支払い
- (3) 植民地の放棄、軍備制限
- (4) 〔 **ラインラント** 〕の非武装化

1920 国際連盟の成立 in ジュネーヴ 史上初の国際平和機構

★国際連盟の問題点

- ① 国際連盟を提唱した〔 **アメリカ** 〕の不参加
- ② 敗戦国〔 **ドイツ** 〕や社会主義国〔 **ソ連** 〕は除外
- ③ 総会での決議は全会一致の原則 ④ 経済制裁のみ（武力制裁×）

ワークシート 2

1914～1918 第一次世界大戦

1939～1945 第二次世界大戦

●資料集の年表を見て、第二次世界大戦に大きな影響を与えたと思うものを年号とともに3つあげてみよう

1929 世界恐慌 1931 満州事変 1937 盧溝橋事件
1933 日本、ドイツ国際連盟脱退 1935 イタリアのエチオピア侵攻 1939 ドイツのポーランド侵攻 など

●単元を貫く問い「なぜ第二次世界大戦は勃発したか？」(予想)

- ・第一次世界大戦後に結ばれた条約に不満を持つ国があったから
- ・ヒトラー率いるナチ党の独裁(暴走)
- ・日本、ドイツ、イタリアの植民地獲得のための他国への攻撃

●各授業の振り返り(第二次世界大戦に関係しそうなことや疑問点をまとめておこう)

10月1日	・民族自決の原則がアジア、アフリカには適用されなかったことを受けて、中国が五四運動、朝鮮が三一独立運動を起こした。この不平等が戦争につながったのでは？
10月11日	・日本が日露戦争や日清戦争に勝利したことでアメリカが日本に対する警戒心をもったことがわかった。
10月15日	・ヴェルサイユ条約のドイツへの賠償金の支払いをめぐる対立が第二次世界大戦の要因になったのではないかと。ドイツのインフレーションは異常すぎると思う。
10月16日	・アメリカが債務国から債権国になったとき、他の国々と比べて国力が高かったことがわかった。
10月18日	・張作霖爆殺事件を日本が起こしたことでアメリカ、イギリスなどの日本への警戒感が増したのではないかと。
10月21日	・世界恐慌によって様々な国の経済が悪化したため、アメリカだけでなく他の国々も対策をとった。その対策が新しい対立を招いたのではないかと。
10月22日	・満州事変により、最終的に日本が国際連盟から脱退したことが、日本が第二次世界大戦に参加していく要因の一つになるのではないかと。
10月23日	・世界恐慌が影響してドイツ社会民主党への支持が減り、ヒトラーが党首をしていたナチ党が議席を伸ばしたことがわかった。
10月25日	・国際連盟を脱退していた国々が関係を強化していったことがわかった。ドイツがヴェルサイユ条約を破ったことで更なる対立を招いたのではないかと。
10月28日	・イギリスの「宥和政策」がヒトラーの暴走を招いたのではないかと。スペイン内戦のゲルニカ爆撃が関係しているのでは

ワークシート 3

世界史探究 主体性を評価する課題

3年 組 番 氏名

●単元を貫く問い「なぜ第二次世界大戦は勃発したのか？」(戦間期前半 1918～1929)

パリ講和会議の基本方針であった民族自決がヨーロッパだけで、アジアには認められなかったから、アジアやアフリカなど多くの国から不満がでている。ワシントン会議で海軍軍縮条約が制定されたが、国ごとに主力艦の保有率に差があることがおかしい。イタリアで後のファシズム体制のはじまりとなるムッソリーニ政権が誕生したことや、ソ連ではレーニンの後継者がトロツキーではなく、裏工作などした乱暴なスターリンになったことで不穏な空気が生まれている。日本は中国に軍事介入や張作霖を爆殺したことで良くない方向に向かっている。このような指導者の変化や対立の要因があり、第二次世界大戦になったのではないか。



●単元を貫く問い「なぜ第二次世界大戦は勃発したのか？」(戦間期後半 1929～1939)

世界恐慌が起きたことで、日本が満州国を建国したように、植民地をもっていない国がブロック経済圏をつくることができず、恐慌を乗り越えるために他国に侵攻した。その後、満州国をめぐる日本が国際連盟を脱退したことも戦争の大きな要因になった。ドイツではナチ党が勢力を伸ばし、権力を握ったヒトラーがユダヤ人を迫害したり、ヴェルサイユ体制を壊したりする行動をしたことが戦争の引き金となった。

また、スペイン内戦が起きて反ファシズムのソ連と、イタリア・ドイツの対立が生まれた。このときのイギリスの不干渉政策やミュンヘン会談でズデーテン地方をドイツにあげた宥和政策がヒトラーのこの後の行動を呼んだと考える。最終的にドイツのポーランド侵攻により第二次世界大戦がはじまった。

